

パブリックコメント：主な意見と徳島県の考え方

| No. | 主な意見 | 徳島県の考え方 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域で学ぶインクルーシブ教育を進めるべきではないか。 ・居住地域から離れた支援学校でダイバーシティの取組を進めるのはおかしい。 ・特別支援学級をダイバーシティの核にしないのか。 | <p>・「インクルーシブ教育」の実現は「ダイバーシティ社会実現」の大切な要件であり、県教委においても「教育振興計画（第3期）」の中で推進目標を掲げて取り組んでいます。</p> <p>・この取組に加えて、各特別支援学校が「ダイバーシティとくしま」を先導する教育活動を行いながら、「センター的機能」を生かして小中高等学校等をはじめ、地域を「ダイバーシティ社会」へと導く取組を進めることにより、障がいのある子どもたちを包含できる地域社会の形成に近づくと考えています。今回いただいた貴重な御意見を大切に受け止め、報告書の該当部分に的確に反映して参ります。</p> |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・重度の子どもも参加できる社会にすべきでは。 ・ありのままを受け入れる価値観が必要ではないか。 | <p>・これからの特別支援学校は、低年齢や重度の障がいも含めて全ての児童生徒が地域の中で活躍し、かつ地域や企業等の方に児童生徒のありのままの姿を知ってもらうような教育活動が必要と考えます。今回いただいた貴重な御意見を大切に受け止め、報告書の該当部分に的確に反映して参ります。</p> |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・国府支援学校がみなと高等学園化するのは反対だ。 ・一般就労できる人だけ対象はダイバーシティではない。 ・知的だけでなく全ての障害を対象にするべきだ。 | <p>・みなと高等学園は、高等学校段階の発達障がいのある生徒に対して社会的・職業的自立を目指す教育を行う中で、その機動性を生かし、生徒が地域の中で活躍する「ダイバーシティの先駆けとなる教育活動」を展開してきました。</p> <p>・一方、みなと高等学園以外の10校の特別支援学校には、様々な障がいの種類、程度の児童生徒が在籍しており、これからはみなと高等学園の先駆的取組を参考にしながら、全ての児童生徒が地域の中で活躍し、達成感を感じられる教育活動を進めるべきと考えております。今回いただいた貴重な御意見を大切に受け止め、報告書の該当部分に的確に反映して参ります。</p> |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育偏重主義だ。 | <p>・「キャリア教育」については、児童生徒が「社会の中で役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する」ことを支援する教育と考えており、職業教育だけでなく自己実現のための幅広い内容を含むものと考えています。</p> |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・国府支援学校ありきではないか。 | <p>・国府支援学校については、早急の老朽、狭隘解消についての御意見が数多く寄せられており、知的障がいの基幹校としての機能を回復しつつ、「ダイバーシティの先導モデル」として機能強化を図ることが必要と考えています。</p> |

| | | |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6 | ・骨子案ありきなのか。 | ・今回の意見募集は、「より多くの皆さんの御意見をうかがい、反映させることで、よりよい報告書を作成する」目的で行っております。 |
| 7 | ・支援学校の在り方の前に特別支援教育の在り方ではないのか。設置要綱には「特別支援教育の現状と課題を整理し」とあるが、それを十分しないまま「特別支援学校のあり方」としているのはなぜか？ 現在パブコメ募集中の文科省の「新しい時代の特別支援教育の在り方」は特別支援教育全般を見直している。 | ・本県の特別支援教育は、平成19年3月「特別支援教育の在り方検討委員会」から示された取組方針に従い、「徳島県教育振興計画（第2～3期）」及び平成27年の「徳島教育大綱」に基づき推進して参りました。 ・こうした状況のもと、令和元年8月の「徳島教育大綱」において「「ダイバーシティとくしま」の実現に向けた教育の推進」が重点項目として示され、今回の検討委員会では、特別支援学校がその「先導役」を果たすための在り方について検討しました。 |
| 8 | ・障害の軽いものが重いものを見下している。 | ・障がいの有無に関わらず、人に対する「いじめ」や「差別」は決して許されません。 |
| 9 | ・軽度の人自己理解を育てることが必要ではないか。 | ・「正しい自己理解」や「他者を尊重すること」など、これまでも学校教育の中で大切にされてきた基本的内容についても、各学校が一人一人の障がい特性に応じて適切に指導するなど、その専門性をより高める必要があります。 |
| 10 | ・板野支援学校も老朽、狭隘化しているがどうするのか？ | ・国府支援学校以外の10校についても、各校の狭隘化や施設設備の老朽化の状況に応じて、現在県が進める「徳島県立学校施設長寿命化計画」の中で、地域連携を促進する施設整備の必要性が「骨子（案）」に盛り込まれています。 |
| 11 | ・国府を卒業したら「ふらっと」のグループホームで過ごせる誤解を生む。 ・まず、行政がつながるべきでは？ | ・障がいのある子どもたちを地域が支える上で、教育と福祉の連携は重要であり、そのためには行政レベルや学校と福祉施設等の現場レベルの協働が大切と考えています。報告書作成にあたっては、誤解のない表現となるよう留意します。 |
| 12 | ・軽度知的、発達障がい、精神疾患の増加の根拠は？ | ・「知的障がいのうち軽度障がいの増加」「自閉症を中心とする発達障がいの増加」「病弱のうち精神疾患の増加」については、国立特別支援教育総合研究所の研究報告をはじめ、様々な論文や校長会の調査等で報告されております。 |
| 13 | ・教員の確保も必要ではないか。 | ・県教委としても、教員を志望する人を増やす取組は重要と考えており、現在行っている取組を継続、発展させて参りたいと考えています。 |